

科目名称	老年看護学実習 (病院・施設)
授業コード	BK373
英語名称	
学期	2024年度後期
単位	3.0
担当教員	大原 裕子, 大西 奈保子, 安川 揚子, 山田 正己
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>健康障害のある高齢者の心理・身体・社会的特性を理解し、高齢者の健康と生活を援助するために必要な知識・技術・態度を修得することを目的とした実習授業である。</p> <p>実習においては、老年期にある人の対象特性に対する理解に基づきその人のニーズを見出して、既習知識・技術を実臨床場面の中で適用・統合し、その人にふさわしい看護過程を展開できる技術・能力・態度を養う。</p> <p>実習内容としては、高齢者の尊厳・権利・安楽を維持しながら、ADLや精神的健康状態の維持・回復・増進、セルフケア能力の向上、ならびに健康上の問題の予測と予防、対人関係・社会交流の創出に繋げる支援を誠実な態度で検討・実践するとともに、対象者をはじめ関係者と良好な関係を築きながら支援ができる能力の養成に価値を置く。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	この科目は看護師として医療機関にて高齢者看護の実践経験のある教員（大原、大西、山田、老年教員）が担当する。
到達目標	<p>この科目はディプロマポリシーにある「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力」「地域で暮らす人々の多様な文化、生活背景、価値観を尊重し、個人・家族・地域の健康レベルに応じた地域包括ケアを実践する基礎的能力」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術」「対象者に最善の支援ができるように、保健・医療・福祉システムの中で、人々と協働する能力」「対象者の権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれること」を身につけることをめざし、下記を実習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の心理・身体・社会的特性を理解し、看護過程が展開できる。 2. 高齢者の特性に応じて関わっている多職種の専門性を理解し、連携と協働の中で看護の果たす役割について理解できる。 3. 実習を通して自己の洞察を深め、自己の課題を明確にできる。
計画・内容	<p>原則として65歳以上の入院患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>【実習日程】</p> <p>1・2・3・4G 2024年9月24日(火)～2024年10月11日(金) 計135時間 15・16・17・18G 2024年10月15日(火)～2024年11月1日(金) 計135時間 11・12・13・14G 2024年11月5日(火)～2024年11月22日(金) 計135時間 8・9・10G 2024年11月25日(月)～2024年12月13日(金) 計135時間 5・6・7G 2025年1月14日(火)～2025年1月31日(金) 計135時間</p> <p>【指導体制】</p> <p>各クールとも、大原、山田、老年教員（全員看護師）が担当する。（非常勤教員を含むこともある） 教員および臨地での実習指導者から指導を受けながら実習を展開する。</p>

計画・内容	<p>【実習病院】 原宿リハビリテーション病院、埼玉みさと総合リハビリテーション病院、水野記念リハビリテーション病院等。 各病院の担当教員および学生配置は別途事前に連絡する。</p>
授業の進め方	<p>【事前学習】 実習前に老年看護学実習での高齢者の看護に必要な学習項目を提示する。 提示内容をもとに、疾患や看護について自己にて学習しておく。</p> <p>【学内実習】 実習初日は学内にて実習オリエンテーションを行う。 必要に応じて、事前学習の確認や学習内容の追加、基礎的な看護技術の確認を行う。 その他、実習に必要な学習内容の補完、実施ケアの準備、記録、面談、実習状況に応じた内容を行う。</p> <p>【臨地実習】 リハビリテーション病院等に入院している65歳以上の高齢者を原則1人受け持ち、看護過程を展開する。 リハビリテーション病院等における多職種連携と多職種の中での看護の役割について学習する。 適宜、カンファレンスを行い、看護上の問題、看護計画、看護援助について検討する。 カンファレンスでは他者の学びから自己の学びを深められるようにする。</p>
能動的な学びの実施	<p>臨床現場において患者を受け持ち看護を展開していく中で、自分に必要となる知識・技術・看護専門職としての態度を習得するために、学生は自律的・能動的に学び続ける姿勢が求められる。そのため、教員や臨地実習指導者は学生が出会う臨床場面を教材に多くの質問を投げかける。これにより、学生は自ら思考・内省し学びを深めていく習慣を身につけることができる。</p> <p>実習プロセスにおいては、カンファレンスの場が適宜設定される。学生が自ら設定することもできる。カンファレンスの場で学生は自己の意見や学びを積極的に発言したり他者の学びを得ることで、学習の深化が期待できる。</p>
授業時間外の学修	<p>【事前課題】 提示された、老年看護学実習での高齢者の看護に必要な学習項目に基づき、主体的に学習した内容は 担当教員に提出すること（実習用ファイルに綴じておくこと）</p> <p>【実習記録】 実習記録は教員の指導を受けられるよう自己にて適宜進めること。 実習時間外に毎日3時間程度の自己学習が必要となる。 授業時間外の学習に関わる時間は個人の進捗状況により異なる。</p>
教科書・参考書	<p>老年看護学の講義で使用した教科書や授業資料のみでなく、成人看護援助論やリハビリテーション看護論、専門基礎科目（生体機能学、栄養代謝学、病態治療学など）の教科書や授業資料を活用すること。</p> <p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山田律子,井出訓編：生活機能からみた老年看護過程（医学書院） ・奥宮暁子編著：ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程 第2版（医歯薬出版） ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者の健康と障害（メディカ出版） ・堀内ふき編：ナースング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践（メディカ出版） ・正木治恵編：パーフェクト臨床実習ガイド老年看護（照林社） <p>その他、適宜担当教員が指示する。</p>

成績評価方法と基準	実習目標に基づく評価表にて評価し、単位認定する。評価は、事前学習、実習態度・意欲、出欠席、受け持ち高齢者への看護実践、カンファレンスの参加状況、実習記録、ケースレポートから総合的に判断する。
課題等に対するフィードバック	各学生の実習進捗や学習必要性に応じて、その都度、口頭もしくは文章にてフィードバックする。学内実習中の面談の場においても、学生の課題となっている事項（実習目標に関する学習内容、実施した援助技術、受け持ち高齢者への関わり・関係性の構築方法、実習態度など）についてフィードバックする。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席すること。 心身の健康管理に留意し実習を行うこと。 特に感染症には注意を払い、体調に不安がある場合はすぐに担当教員に報告・相談すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	感染拡大により臨地での実習が困難となった場合は、オンラインを使用した非対面授業も検討する。実習内容が変更になった場合は、変更した実習内容を事前に学生に周知するとともに、評価方法に関しても丁寧にオリエンテーションを行う。成績は別途作成した評価表の基準・配点に基づき評価する。